

(様式2)

学 校 関 係 者 評 価 報 告 書

愛媛県立今治特別支援学校

学校番号 (52)

評 価 実 施 日		令和 7 年 2 月 26 日 (水)	
委員	氏 名	所 属 等	備 考
	越智 清仁	学校評議員、(福)来島会理事長	
	浅海 廣司	学校評議員、明德短期大学・愛媛学園講師	
	世良 徹也	学校評議員、今治市桜井公民館長	
	地行千恵美	学校評議員	
	橋田 英俊	学校評議員、正光会今治病院精神科医師、本校学校医	
	山田 洋史	P T A会長	
	石川 美穂	P T A副会長	

評 価 ・ 提 言 等	提言等に対する改善方策等
1 生徒指導について ・生徒からの意見を聞く場があるとよい。保護者も同席して、座談会のような形式の場がよいのではないか。 ・部活動や特別活動での実績が上がっている。全国レベルでの活躍も見られる。	生徒会が生徒の声を聞くポストを設置している。 また、具体的な方法は未定であるが、生徒や保護者の声を聞く場を設ける予定である。 知的障がい者スポーツとして、卓球・陸上・水泳がある。卓球と陸上については、部活動で指導をしており、全国障がい者スポーツ大会に出場した。生徒の活躍を称賛するために、全国入賞した生徒に対しては懸垂幕を掲げている。
2 進路指導について ・就職先を見ると大企業が多い。規模の小さな企業からの求人はどのような状況か。 ・離職せず、仕事が続くよう卒業後のアフターケアをお願いしたい。 ・保護者として事業所の見学をした。施設の階段の傾斜がきつく、子どもが下りるのに苦労したので、環境をよく調べておく必要性を感じた。	進路課でハローワークや企業訪問を実施し、新規開拓を行っている。障がい者雇用率の引き上げがあり、求人は増えている。生徒・保護者の希望に応じて、個人実習を行い、就職につなげていきたい。アフターケアは卒業後3年間実施している。昨年度の離職者はいない。 早い段階から進路先に関心のある保護者が増えており、施設・作業所合同説明会には小学部保護者の参加も見られた。高等部では、必ず生徒と一緒に事業所見学を行うよう指導している。
3 保護者・地域連携について ・保護者アンケートの回答率が低いが、アンケートがあったことを知らなかった保護者もいるのではないか。マチコミの通知だと気付かないことがある。 ・紙媒体だと子どもが失くすことがあるが、アプリだと履歴が残るので便利な面がある。保護者が一番見るのは週案なので、週案に記載があるとういと思う。 ・小学部の人数が増えている背景には、専門性の高い教育が地域から支持されていることがある。時々でニーズは変化していくが、その都度求められていることに応えていく必要がある。	今年度からFormsでの集計に変更したところ、保護者の回答率が低下した。マチコミ、週案、担任からの連絡など複数の周知の方法を取り、回答率の向上を図りたい。 小学部と中学部では児童・生徒数が増加している。高等部では、私立高校や県立高校との併願が増えている。関係機関と連携して、地域の要望や支援の方法について情報を共有していきたい。
4 業務改善について ・アンケート結果では施設設備、業務改善の数値が低くなっている。	施設が古くなっており、補修箇所は増えている。施設の補修については、県への要望を含め優先順位を付けながら事務課で迅速に対応している。
5 学校評価全般 先生方の日々の指導に感謝している。これからも、児童・生徒、保護者、教職員の3つが一体となって今特の教育を高めてもらいたい。 教職員の方から、挨拶が返ってこないことがあるので、来校者への挨拶について先生方をお願いしたい。	教員だけでなく他職種の職員も含めて、保護者はもちろん来校者への挨拶や親切な対応を徹底する。